

News Letter

■2013年3月29日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

2012年度のTA研修会は、TA経験者および今後TAになろうとする学部生・大学院生等を対象に、来年度に向けた意識づくりや業務内容の把握(引き継ぎ)を目的として、3月6日(水)の午後に実施されました。この号では、研修会の概要と参加者の感想をご紹介します。

TA向け相互研修会実施報告

「TAの役割と心構え ～来年度の活動に向けた準備のための研修会」

研修会の概要

研修会では、田中理事からのお話の後、2つの活動を通してTAの業務について考えました。1つ目の活動では、「話の聴き方」についてのペアワークを行い、「傾聴とミラーリング」について学びました。2つ目の活動では、提示された仮定のTA像をもとに、「理想的なTAの在り方」についてディスカッションを行い、グループごとに成果を発表しました。参加者のほとんどは大学院への進学を決定・予定している学部生でしたが、それぞれが現在お世話になっているTAのことを思い浮かべたりしながら、TAの役割について、活発な議論が展開されました。

グループディスカッションの成果

TAの活動は、どの授業・教員によって雇用されるかということによって大きく異なります。例えば、実験を行う授業では、実験の準備物や手続きをよく理解しておくことがTAの何より重要な仕事となりますし、プロジェクトを行う授業では、調べ物やグループの話し合い、発表(プレゼンテーション)に向けた準備の手伝いなど、プロセス全体を理解した指導が求められます。

そのような事情から、今回の研修会では、同じ研究室に所属する参加者ができるだけ同じグループとなるようにグループ分けをして、活動を進めてもらいました。そういうわけで、グループによって、「TA業務」としてイメージした内容は異なっていたと思いますが、最後に各グループから報告されたディスカッションの成果は、どれもTA業務一般に対して示唆に富むものでした。

1つ目のグループは、「責任」と「知識」を持ち、教員や学生、他のTAと「連携」できることが、TAには必要であるということで、TAのイメージを三角形の

図にわかりやすくまとめてくれました(図1)。

2つ目のグループは、提示されたTA像に関して、詳細な



図1 第1グループの発表



図2 第2グループの発表



図3 第3グループの発表

実験の補助業務をTAの主な仕事として想定したこのグループでは、予習や準備の大切さが、特に重要なポイントとして議論されました。

分析を行ったうえで意見を述べてくれました。TAの能力は、「自主性」という軸の上に配置でき、業務においては、責任感

と使命感を持ちながら、適度な自主性の持ち方をはかることが重要とのことでした(図2)。

3つ目のグループは、TAに必要な視点を「予習をきっちり」、「周りに目を配る」、「研修を受ける」という3つにまとめてくれました(図3)。

参加者の感想

研修会では最後に感想を共有する予定でしたが、議論が活発に行われ、時間切れとなってしまいました。以下に、参加者の感想と意見(理想のTA像)をご紹介します、共有にかえさせて頂きたいと思います(表1)。

表1 参加者の感想および「理想のTA像」

- * 何となく知っていた「TA」がより深くわかったと思う。TAは教授と学生の間において、学生からより簡単に質問をされる、質問できる立場となるべきであり、それにこたえるために、事前準備が必要なのだったと思った。
- * TAについて考え、意見を共有することで、自分がTAになるときに、こうしよう！ということが具体的に考えられて良かった。学生、教員とをつなぐ役割をはたすことができるTA(になりたい)。
- * 今後も研究室のしっかりとした雰囲気を保てる様に、個人としてしっかり取り組んでいきたいと思いました。学生には“釣った魚”を与えるのではなく、“魚の釣り方”を教えていきたいと思っています。
- * TAになった場合、他のTAや教員の先生方との関わりを大事にし、学生のサポートに勤められると良いと感じた。
- * 実験や講義についての知識をしっかりと身につけ、学生に頼られるような雰囲気をもったTAになれるように努力していこうと思いました。
- * 学生の立場に立って、よりスムーズに授業を進められるように、事前準備を行いたい。また、先生よりも身近な存在として学生から頼られるようにしたい。
- * 様々なコミュニケーション(連携)、事前に知識を確認しておく余裕、また、自分の責任の範囲を理解し、その範囲で速やかな行動が起こせるTAになりたい。
- * 周りの人間がTAについて真剣に考えていて、うれしく思いました。学生全員の顔と名前が一致する、そんなTAになりたいです。
- * TA直前にこのような機会があり、良かったです。バランスを大切に、TA活動を行おうと思います。ありがとうございました。
- * TAとしての心構えについて、事例を上げて、ディスカッションできたので良かったです。学生と一緒に真剣に問題解決に取り組めるようなTAになりたい。
- * TAとしての責任感、自主性をバランスよくすることが大切だと分かりました。あと、色々な注意点も勉強になりました。えがおが大切です。参加者みんな積極(的に議論)していて、おもしろく勉強しました。
- * 質問に返答する際にも傾聴かつミラーリングを駆使し、献身的な姿を取ることで生徒にとって話しかけやすいTAになる。
- * TA同士での交流があってよかった。どのような立場なのかよくわかった。
- * 次回も期待しています。
- * この研修が良かったので、規模を大きくしてもいいと思う。

今後にむけて(運営者より)

研修会には、TAを採用する立場である先生も参加され、先生からの「TAへの要望」についてのご意見をいただくこともできました。経験者と未経験者、採用者と被採用者など、異なる立場からの意見が交わされたことが、議論が活性化した理由の一つなのではと思います。

また、多くの意見が交わされた背景には、TAが行う「人をサポートする」という行為が、TAにのみ関わる行為ではなく、大学で後輩や仲間と関わる中においても、社会に出て組織の一員となった場合においても避けては通れない、誰にとっても重要な行為であるという点もあったのではと思います。重要だけれどなかなか取り立てて話すことが無い、そんなテーマであり、こういったテーマで学生同士、あるいは学生と教員がディスカッションする機会を持つことは、とても有意義なことであると感じました。

今回の研修会は、年度末の慌ただしい時期、まだ来年度のTAが決定していない授業もある中での開催となり、関心はあるのにご参加いただけなかったという方も多かったのではと思います。よりよい形で開催できるよう、検討していきたいと思っています。

(高等教育創造開発センター 中山留美子)



図4 研修会の様子